

# もくもくプロジェクト見学会ブログ

デザイン学科3年生 T.J.



今回の見学で、他ではできない貴重な経験が出来たと思う。山で直接木を育てて、販売、製材、木造住宅まで、木材が生まれ人間に消費されるまでの一連の過程を知ることになった。また、山で木を育てる過程、オークションで分類及び販売購入する過程、製材をして木材を建材などに仕上げる過程に立ち触るすべての人々がそれぞれの思いがあって木を大切にしていることがそばで感じられた。

木を育てる方は、目の前の利益のために木を育てることはなく、何十年後、何百年後の山、自然を考えながら林業に臨んでいた。私はいつも目の前のことで手一杯になるが、目の前のことにとらわれず、余裕を持って未来のことをきちんと考える生き方がとても素敵だと感じた。

丸太市場の方は、優れた木材をその価値を知っている然るべき人に繋げたいと言う一心であることが感じられた。以前は木材の値段はそこまで変わらないと思っていたが、節一つ、色少しでその価値が桁違いになる事が分かった。その上に、これからはその価値を知ってくれる人が増えて欲しいと強く思った。

製材所では、またクライアントがいてその要望に合わせて木材を切り、乾かし、納品することが主な仕事であるが、木材は無機質な素材とは違って一つ一つが大きさ、かたちが違うものを均一にしていく様は美しかった。有機質材料なので、製材する中、中が腐ったり切れていたりすることも多々あると言うが、クライアントと相談し納品の打ち合わせを毎回行うらしい。

「話す、理解する、解決する」と言った流れは簡単そうに見えるが、木材に立ち触っている仲間と言う信頼関係があるからこそできるものだと考えた。社会が更にお互いのことを信頼するようになることがどれだけ尊いことであるのかを思い知った。

木材が製品としてよく市場で見かけるが、一般的にはその木がどこから来たのかは考えていないと思う。私もそうだったが、今回の見学で木材の商品を見るときは木材がいかに多くの人の手を経て作られているのかを考えるようになった。

なお、木材に関わっているすべての人々の思いが詰まっていることに強く感動し、これからはもっと木材に触れていきたいと思うきっかけとなった。